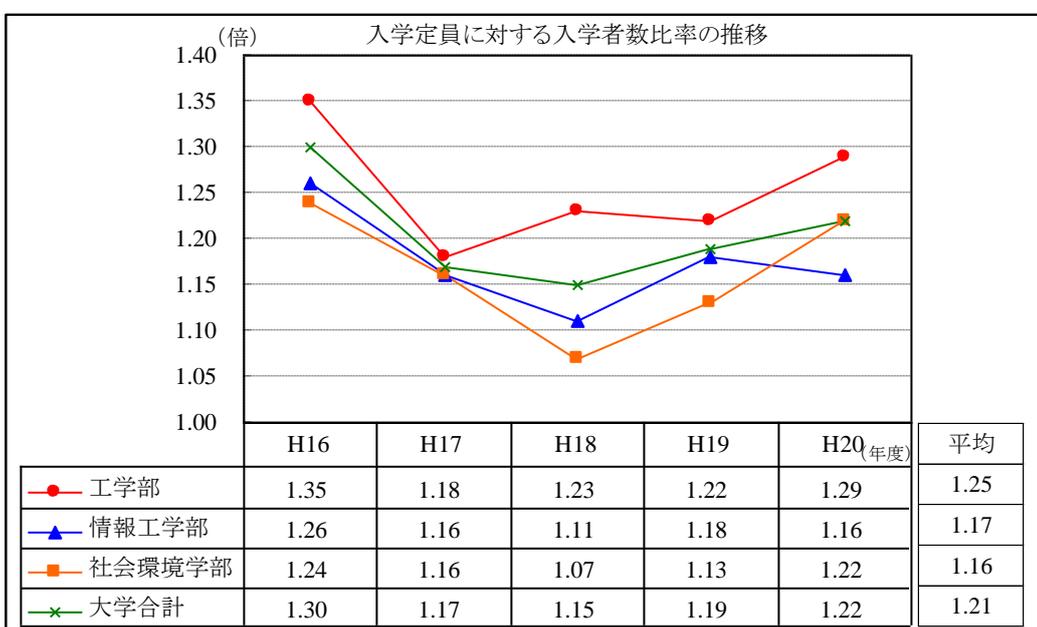
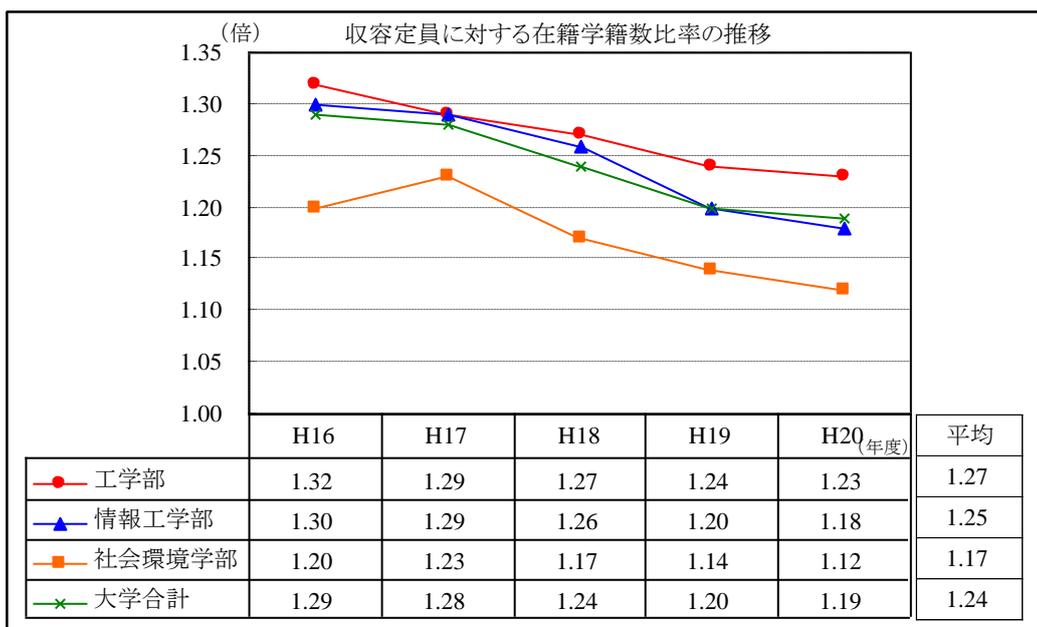


2. 勧告について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	学生の受け入れ
	指摘事項	1) 工学部 (1.32 倍)、情報工学部 (1.30 倍) は、収容定員に対する在籍学籍数比率が高く、また、過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率も高い (工学部 1.28 倍) のでは是正されたい。
	評価当時の状況	<p>工学部の学科別に見ると、各年度に 1~2 学科に超過が見られる。たとえば平成 16 年度においては、電子情報工学科と電気工学科において超過がみられ、とくに電気工学科が 1.55 倍と高く、歩留まり予測に 20 名ほどの見込み誤りがあった結果である。平成 12 年度から平成 16 年度までの 5 年間では、平成 16 年度の 1.35 倍があるが 5 年間の平均が 1.28 倍であり、工学部の入学者数の定員管理は良好と判断される。</p> <p>・工学部 平成 13 年度 (第 4 年次) から平成 16 年度 (第 1 年次) における工学部の総収容定員 1,480 名に対し、在籍学生数は 1,952 名で、その比率は 1.32 と若干高く、学科別に見ると 3 学科で 1.30 を超過している。しかし、留年者総数 252 名を除くと 1.15 であり、在籍学生数の定員管理は比較的に良好であると判断される。また、留年率は約 13% で、第 3 年次と第 4 年次が比較的が多いが、近年の教育改革による低学年次教育の充実によって、第 2 年次の留年生が 44 名に半減しており、将来に向けて今後もさらに改善を継続していく予定である。なお、第 1 年次の留年生 26 名は、平成 16 年度より新設した進級要件 30 単位を満足できなかった学生であり、この制度に関する評価は今後の結果を待つ必要がある。</p> <p>・情報工学部 平成 13 年度 (第 4 年次) から平成 16 年度 (第 1 年次) における情報工学部の総収容定員 1,300 名に対し、在籍学生数は 1,684 名で、その比率は 1.30 である。留年者数 102 名を除くと 1.22 と良好で、情報工学部も在籍学生数の定員管理は良好であると判断される。また、留年率も約 6% と少なく良好であると判断される。なお、第 1 年次の留年者数が 0 であるが、これは第 2 年次への進級要件を設けていないからである。</p>
	評価後の改善状況	<p>まず、在籍学籍数比率については、平成 20 年度工学部 1.23 倍、情報工学部 1.18 倍と改善している。次に、工学部の過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率については、1.25 倍と前回の点検・評価 (1.28 倍) より改善している。ただし、単年度で見ると平成 20 年度は 1.29 倍、また学科別では工学部の電子情報工学科 1.40 倍、知能機械工学科 1.34 倍、情報工学部の情報工学科 1.36 倍、システムマネジメント学科 1.33 倍と 1.25 倍を超えるところがあり、入学者数の管理を更に徹底する必要がある。</p> <p>なお、5 回目となる 2008 年度点検・評価活動が終了した平成 21 年度入試については、歩留まりの見誤りにより、前年入試に比し、入学者が増加したため、収容定員に対する在籍学籍数比率は、工学部 (1.30 倍)、情報工学部 (1.23 倍)、また、過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率は、工学部 (1.29 倍)、情報工学部 (1.19 倍) となった。今後より一層の定員管理の厳格化を図る必要がある。</p>

改善状況を示す具体的な根拠・データ等



<大学基準協会使用欄>

検討所見

改善状況に対する評定

1 2 3 4 5